

つながろう

OKITAMA

機関紙



連合置賜

2015年5月7日

第18回統一選挙特集号

連合山形置賜地域協議会

発行責任者: 齋藤貴裕

〒992-0042

米沢市塩井町塩野 1-1

米沢地区勤労者福祉会館内

第18回統一地方選挙終わる！  
支持拡大の取り組みに感謝！！

全推薦  
員8名  
当選

働くものの声を  
更に議会へ！！



【推薦候補者必勝の取り組みに感謝と御礼】

連合山形置賜地域協議会  
議長 齋藤貴裕



日頃からの連合置賜の諸活動に対するご理解とご協力に感謝申し上げます。この度の第18回統一自治体選挙では、連合置賜として、県議会議員1名、市町議会議員7名、合計8名の候補者を推薦し、全員の当選に向けて取り組みを行って参りました。結果についてはご案内の通り、連合置賜推薦の候補者8名全員の当選を果たすことができました。構成組織の皆様のご支援とご協力に深く感謝を申し上げます。

県議会議員選挙（米沢市選挙区）においては、定数3名に対して5名の立候補と激戦であり、また12年ぶりの県議会議員選挙ということもあって、選挙活動の進め方、連携の取り方などで若干の課題はありましたが、休日の街頭での選挙活動など構成組織の皆様から多くのご協力をいただき、見事トップ当選を果たすことができました。一方の市町議会議員選挙では、7名の候補者全員の当選に向け、連合置賜構成組織それぞれで支援候補者に対する組織固めを行っていただきました。市町議会議員選挙は人間関係が大きく関わってくるため、非常に難しい選挙であり、組織固めにも苦労されたと思います。職場訪問、門立ち、電話作戦など、それぞれの組織で出来る限りの対応をいただき、結果として推薦候補者全員が当選することができました。

政策制度の取り組みとしては、選挙に当選して終わりではなく、当選した後の取り組みが重要であります。連合置賜としては、今回当選した議員と政策協定を結び、連携を図りながら、政策制度の取り組みを進めて参りますので、引き続き構成組織の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

皆様の取り組みにあらためて感謝申し上げます、第18回統一地方選挙の総括とします。

# 第18回統一地方選挙 連合山形・置賜地域協議会 推薦候補者各選挙区開票結果(その1)

【山形県議会議員選挙米沢市区※定数3人（4月3日告示，同月12日投開票）】

定数3人 当日有権者数：68,312人 投票率：55.84%

		候補者名		得票数	
1	当選	木村 忠三(49)	無現	9,505	推薦
2	当選	後藤 源(75)	自現	8,824	
3	当選	渋間佳寿美(45)	自新	8,744	
4		遠藤 正人(51)	無新	6,031	
5		白根沢澄子(64)	共新	4,659	

【米沢市議会議員選挙※定数24人（4月19日告示，同月26日投開票）】

定数24人 当日有権者数：68,281人 投票率：59.12%

		候補者名		得票数	
1	当選	相田 光照(42)	無現	2,349	
2	当選	山田富佐子(58)	公現	2,019	
3	当選	海老名 悟(53)	無現	1,973	
4	当選	鳥海 隆太(48)	無元	1,953	
5	当選	高橋 寿(59)	共現	1,922	
6	当選	小久保広信(55)	無現	1,715	推薦
7	当選	成沢 和音(27)	無新	1,669	
8	当選	山村 明(66)	無現	1,633	
9	当選	我妻 徳雄(54)	無現	1,624	
10	当選	島軒 純一(55)	無現	1,614	
11	当選	中村 圭介(37)	無現	1,572	
12	当選	小島 一(37)	民新	1,540	推薦
13	当選	工藤 正雄(65)	無現	1,525	
14	当選	佐藤 弘司(59)	公現	1,450	
15	当選	相田 克平(48)	無現	1,415	
16	当選	皆川真紀子(45)	無新	1,407	
17	当選	太田 克典(55)	無新	1,392	推薦
18	当選	斎藤千恵子(61)	無現	1,323	
19	当選	佐藤 忠次(73)	自現	1,314	
20	当選	島貫 宏幸(48)	無新	1,314	推薦
21	当選	木村 芳浩(45)	無現	1,281	
22	当選	高橋 英夫(59)	共新	1,129	
23	当選	鈴木 藤英(44)	無新	1,116	
24	当選	堤 郁雄(51)	無現	1,026	
25		関谷 幸子(64)	無新	986	
26		鈴木 章郎(47)	無現	617	
27		大友 和則(49)	無新	611	
28		鈴木 睦夫(70)	無元	409	

# 第18回統一地方選挙 連合山形・置賜地域協議会 推薦候補者各選挙区開票結果(その2)

【川西町議会議員選挙（4月21日告示，同月26日投開票）】

定数15人 当日有権者数：13,676人 投票率：68.61

		候補者名		得票数	
1	当選	遠藤 章一(57)	無現	846	
2	当選	金子 一郎(66)	無現	705	
3	当選	伊藤 寿郎(49)	無新	691	
4	当選	鈴木 幸広(58)	無新	686	
5	当選	高梨 勇吉(67)	無現	675	
6	当選	齊藤 智志(62)	無現	655	推薦
7	当選	加藤 俊一(65)	無現	589	
8	当選	伊藤 進(55)	無新	568	
9	当選	神村 建二(73)	無新	553	
10	当選	斎藤 修一(62)	無現	542	
11	当選	佐々木賢一(66)	無現	540	
12	当選	鈴木清左衛門(60)	無新	538	
13	当選	淀 秀夫(79)	無現	464	
14	当選	高橋 照夫(64)	無現	453	推薦
15	当選	橋本 欣一(57)	共現	431	
16		渡部 秀一(56)	無新	350	

【白鷹町議会議員選挙（4月21日告示，同月26日投開票）】

定数14人 当日有権者数：12,261人 投票率：78.68

		候補者名		得票数	
1	当選	佐々木誠司(49)	無新	1,055	
2	当選	今野 正明(61)	無現	943	
3	当選	笹原 俊一(53)	公新	773	
4	当選	奥山 勝吉(58)	無現	705	
5	当選	遠藤 幸一(65)	無現	668	
6	当選	田中 孝(66)	無現	655	
7	当選	関 千鶴子(57)	無現	652	推薦
8	当選	樋口与一朗(58)	無現	622	
9	当選	小形 輝雄(68)	無現	619	
10	当選	小口 尚司(54)	無現	591	
11	当選	菅原 隆男(68)	無現	588	
12	当選	山田 仁(65)	無現	566	
13	当選	佐藤 京一(63)	無現	376	
14	当選	石川 重二(73)	共元	357	
15		新野いく子(64)	無現	327	
16		増田 啓子(63)	無新	89	

## □■第18回統一地方選挙活動フォト■□

3月1日(日)に開催された木村忠三後援会事務所開きを皮切りに、各選挙区推薦候補者の事務所開きや出陣式、そして開票を見守る会に至るまで、働くものの声を地方議会へ送り届けるべく様々な形で支援して参りました。

昨年未の解散総選挙に続いての運動となりましたが、2015春闘取り組みと併せての活動に心から感謝と敬意を表しつつ、山形新聞記事抜粋等も交えまして、この間の活動フォトを掲載させていただきます。

### 【山形県議会議員選挙米沢市区 4月3日(金)告示・12日(日)投開票】

(4月3日金曜日 必勝祈願祭と出陣式)



(4月6日月曜日 個人演説会)



(4月10日金曜日 総決起集会)



(4月11日土曜日 勝手連の集い)



(4月12日日曜日 開票を見守る会)



# 破る

## へ持浸透

代を訴え、同世代の支援者を中心に着実に支持を広げた。地盤の宮内地区や新興住宅地を含む沖郷地区など

で優位に立ち、現職の地盤で最大の票田の赤湯地区でも浸透した。佐貝は党国会議員や市長白岩孝夫、支援市議らの後押しを受けて組織戦を展開。序盤動きの鈍さが目立ち、4期連続無投票への批判を受けて伸び悩んだ。終盤、危機感を前面に出して巻き返しを図ったが、流れを変えられなかった。

陣営を引き締めた。関は市内全域をくまなく回り、共産支持層を固めた。医療介護や教育問題、「戦争を進める安倍政権」への反対を訴え非自民層の受け皿としてアピール、当選圏内に滑り込んだ。草島は街頭演説を柱にした戦いに徹し、自然と共生する社会の実現を訴えた。この4年間、地元での活動に十分な広がりが出ず、無党派層の支持を固めきることができなかった。

ら全域に支持を拡大。陣営が合言葉としてきたトップで4選を決めた。後藤は高齢・多選批判、系列の渋間出馬による危機感をばねに結束を強め、きめ細かな運動を展開。米沢栄養大開学、新道の駅の重点選定を挙げて貢献をアピールする戦略が奏功した。市長安部三十郎の応援も得て県政史上最多で2人目の10回目の当選を果たした。

# 木村、後藤が地力発揮

## 渋間、無党派層からも支持

### 米沢市区

2度の無投票を経た12年ぶりの選挙戦は、現職の無所属木村忠三と自民後藤源が組織力を生かして1、2位に入った。いずれも前米

沢市議の3新人のうち、自民の渋間佳寿美が無党派層からも支持を得て初陣を飾り、無所属の遠藤正人と共産の白根沢澄子は地元地区や組織以外に浸透しきれず、涙をのんだ。

木村は父の元県議莞爾の民の渋間佳寿美が無党派層からも支持を得て初陣を飾り、無所属の遠藤武彦の支持者の一部を加えた分厚い布陣が機能した。自身の選挙を控えた系列の若手市議らもフル回転し、地盤の市街地か

後藤と渋間は、当初「自主投票」としていた公明支持者から中盤以降、支援を得て票を上積みした。遠藤は地元南原地区で悪臭問題解決への行動力を強調、豪雪対策充実などに向け地区出身県議の必要性を訴えたものの、現職の切り崩しを受けた。公明票の一部を取り込んだが及ばなかった。

# 力勝る

の壁崩せず

所属新人の高桑順一は3候補の争いに埋没した。現職ながら初の選挙戦だった小松は、隣町からの新人出馬に危機感を持って早くから精力的に動き、地元

の真室川町をまとめ、つじ立ちなど地道な活動で南部にも食い込んだ。若きと行動力を訴え、若者や女性にも支持を得た。北部の激戦のあおりを受けて、地盤の南部で他候補の切り崩しを受けた伊藤は系列町村議がフル回転。4期16年で築いたネットワークを生かしたほか、組織の引き締め策も功を奏し、地元の舟形町や最上町でのリ

ードを守りきった。岸は地元の金山町をまとめ、全域で一定の支持を得たが、出遅れも響き、伸び悩んだ。終盤には父の参院議員岸宏一も自身の後援者にてこ入れを図ったが、届かなかった。共産の支持を受けた高桑は最上小国川ダム建設反対などを訴え、南部で一定の支持を得たが、広がりを見せなかった。

街頭演説を徹底した白根沢は、国保引き下げ、子ども医療費の無料化拡充などの地域政策の重要性を主張。安倍政権への批判票の獲得も目指したが、党支持層以外からの票の伸びは限定的だった。

※4月13日付け山形新聞記事抜粋（県議選を振り返って）

## 【米沢市議会議員選挙 4月19日(日)告示・26日(日)投開票】

(4月19日日曜日 各候補者必勝祈願祭・出陣式)



【小久保広信陣営】



【小島一陣営】



【太田克典陣営】



【島貫宏幸陣営】

米沢市

Table with 3 columns: Name, Party/Role, and Status. Lists candidates for the Yamazaki City election.

寒河江市

Table with 3 columns: Name, Party/Role, and Status. Lists candidates for the Hanagawa City election.

上山市

Table with 3 columns: Name, Party/Role, and Status. Lists candidates for the Ueyama City election.

【名簿の見方】氏名、年齢、職業、党派、現元新別。並びは届け出順

上位うかがう新人

固い地盤の現職は安定

米沢

(定数24-28)

定数24人に対して現職17人、元職2人、新人9人が...

域活動で培ったネットワークで支援を広げる。前回3位の中村は高校時代の友人らの支持に加え...

社民系元職が浸透

投票率上がる見方も

上山

(定数15-18)

現職12人、元職2人、新人4人が立候補し混戦模様。投票率は、東日本大震災発生後間もなかった前回の60%

票、組織票を固める。南原堤は主に中田町の票固めに力を入れ、県看護連盟の支援で上積みを図る。激戦の三沢の新人鈴木藤は縁故のほかに市周辺部にも浸透する。小倉地区を足掛かりにする長沢は中川地区で攻勢を掛け、矢来地区の坂本は、衆院議員元秘書の知名度を活用、市周辺部でも票固めを進める。

中心部の浮動票が鍵

当選ラインは90票台か

寒河江

(定数16-19)

今回から2減の定数16に対し、現職13人、元職2人、新人4人が立候補し、かつてに地元西根以外の地区でも支持を拡大。市商工会青年部長を務めた最年少の国井はネットも活用した選

候補者が1人減った上郷では、自民公認佐藤忠が陣営の引き締めに加え、新人の太友は地元窪田以外での知名度アップに懸命だ。元職の島海、鈴木睦は現職と新人の集票合戦の中、埋没回避に全力。鈴木章は市政批判票を集めるが広がりに欠け、三沢の関谷は支援が限定的で激戦地区の中で苦戦しており、それぞれ巻き返しを目指す。(6万9377人)



四季の杜
春燈や家族会議に大がいて
縄文時代にはすでに一緒に生活していた形跡があるという人間と犬との長い歴史。ペットとは愛玩を目的として飼育されるときに家族以上の存在



(4月26日日曜日 各候補者開票を見守る会)



【小久保広信陣営】



【小島一陣営】



【太田克典陣営】



【島貫宏幸陣営】

# 投票率60%下回る

## 地盤を固め現職上位

### 米沢市

米沢市議選は定数24に対

とができるようになった。女性議員は前回と同じ3人。

して現職17人、元職2人、議長経験者ら勇退の4人

新人9人の計28人が立候補と、県議選に出馬した3人

し、激戦を展開した。当選の支持者の動向や空白地区

したのは現職16人、元職1人の票をめぐり、組織票や固

人、新人7人。投票率は59%の地盤、知名度のある現職

・12%で、前回は2・05%勢と元職、20〜40代の若手

下回った。当日有権者数はや組織の支持を得る新人が

6万8281人。優位に戦いを進めた。

党派別では自民と民主が市議選で投票率が60%を

1人ずつ、公明と共産が各下回るのは初めて。東日本

2人、無所属が18人。共産大震災直後で自粛ムードと

は県議選出馬に伴う欠員分になった前回よりさらに低

を取り戻し、会派を組むこく、盛り上がり欠けた。

※4月27日付け山形新聞記事抜粋（市議選を振り返って）

【川西・白鷹町議会議員選挙 4月21日(火)告示・26日(日)投開票】

(4月21日火曜日 各候補者必勝祈願祭・出陣式)



【斉藤智志陣営】



【高橋照夫陣営】



【関千鶴子陣営】

# 勇退4人の票が焦点

## 川西

(定数15-16)

定数15に対し現職10、新人6の計16人がしのぎを削る。実績を重ねる現職は支持基盤を維持し、優位に戦いを展開。投票率は下げ幅が県内最大だった前回(67・28%)と同水準か少し回復するとみられ、複数の新人が中心部の浮動票を獲得し、上位に食い込む可能性がある。勇退者4人の票の行方が鍵を握る。

前回、前々回とトップ当選の遠藤は地元犬川を固め、農協関係の支持も取り付けるなどして先行。6期目を狙う加藤、7選を目指す金子は大塚でそれぞれ票を分け合って続く。町職労の推薦を受ける高梨は大栗田小松に浸透。斎藤修は吉島で安定感を見せる。

新人で勢いがあるのは、前回2位当選した議員の地盤を引き継ぐ伊藤進ら。農業分野の実績をアピールする鈴木清も支援を広げている。吉島の最年少伊藤寿は青年層から支持を集め、小松の神村は知人や同世代、自治会連合会長の人脈を頼りに集票する。

吉島から縁故票を見込む玉庭の淀、東沢唯一の候補佐々木、新社会推薦で犬川の斉藤はいずれも地元で着実に支持を確保。共産現職

の橋本は小松での票の上乗せを図る。

# 当落攻防予断許さず

## 白鷹

(定数14-16)

定数14に対し現職12、元職1、新人3の計16人が争う。荒砥、東根両地区で各5人、鮎貝地区で4人が乱立し、500票前後とみられる当落線上の争いは混戦で予断を許さない。蚕桑地区と、守谷丹吾が勇退する鷹山地区での集票や浮動票の取り込みが鍵を握る。

当選ラインをめぐる攻防は激しさを増している。前回は激戦した玉庭の高橋照は回苦戦した。候補者が1人減るも地元固めに躍起。中郡の新人鈴木

当選4回の議長今野が地盤の十王地区などで浸透し、前回トップ当選の小口は農業関係や青年層、関は後援組織を中心に足場を固める。菅原は地元貝生のほか鷹山地区で票の取り込みを進める。青木彰栄が県議選出馬のため辞職し昨秋から町議不在だった蚕桑地区から立った佐々木と、2003年以来の公明候補となつた笹原は地域や関係者の厚い支援を受ける。

山田は農業関係者を中心に集票し、共産の元職石川は党勢を得票に結び付ける戦略。小形、副議長遠藤は地域票を固め、佐藤は後援組織などを活用。他候補と競合する奥山と樋口は懸命に集票範囲を広げる。新野は地域活動の人脈を生かし、同一地域で2新人と競合する田中は票固めと他地域での開拓を進める。告示直前に出馬を決めた増田は独自の戦い。

町内から候補者が出た県議選後とあって選挙への関心は高いが、投票率は下降傾向にある。前回は81・19%で、今回は80%を下回ると予想される。

(1万3825人)

# 込み懸命

(1万2369人)

※4月24日付け山形新聞記事抜粋(町議選終盤戦情勢)

(4月26日日曜日 各候補者開票を見守る会)



【齊藤智志陣営】



【高橋照夫陣営】



【関千鶴子陣営】

